2024年度 北陸大学一般選抜(本学独自方式)A日程問題

(2月1日実施)

日 本 史

(注 意)

1. 問題冊子は本文8ページ、問題 I ~IV、解答数32。
2. 解答用紙はマークシート1枚、解答は各解答欄に、当てはまる
選択肢の枠内をぬりつぶすこと(複数解答は無効)。
3. 解答用マークシートは、持ち帰ってはならない。
4. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
5. コピー及び二次利用は行わないこと。

【I】次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

奈良時代の初期には、藤原（ A ）が権力を握り、天皇家に接近して藤原氏発展の基礎を固めた。（ A ）の死後、天武天皇の孫が右大臣となり政権をとったが、この前後から負担に苦しむ農民の浮浪・逃亡が増え、社会の不安が表面化してきた。一方、貴族や寺社の土地占有や人口の増加のため、田地が不足して班田収授の実施が困難となった。政府は、722年に（ i ）万町歩開墾計画を立て、723年には（ ii ）世一身法を施行して開墾を奨励した。この法は、新しく灌漑施設をつくって開墾した者は三代の間、もともとある池溝を利用した者は本人（ iii ）代に限って墾田の所有を認めるというものであった。その後、政府は、743年に墾田永年私財法を制定し、一定の限度内で開墾した土地を永久に私有することを許可した。

（ A ）の娘を母とする聖武天皇が724年に即位する頃から、（ A ）の子の武智麻呂・房前・宇合・麻呂の4兄弟が政界に進出した。彼らは729年、左大臣にのぼった（ I ）に謀反の疑いをかけて自殺に追い込み、政権を手中にした。それとともに、（ A ）の娘の（ II ）を聖武天皇の皇后としたが、これは皇族の女性が皇后になるという伝統を破るものであった。ところが、4兄弟はまもなく疫病のために全員死亡してしまい、政権は皇族出身の橘諸兄の手に移った。

740年、大宰府の官人であった藤原広嗣は、勢力の回復をはかって（ B ）で反乱を起こした。乱は、やがて鎮圧されたが、聖武天皇は、疫病・凶作など相次ぐ災害や争乱に動揺し、都は奈良から山背（城）、摂津、近江を転々とした。

聖武天皇は、政治と社会の動揺を仏教の力によって防ごうとし、741年に国分寺・国分尼寺の建立を命じ、743年には、紫香楽に廬舎那仏をつくる大仏造立の詔を発した。大仏はその後、（ C ）の本尊として鑄造され、孝謙天皇の752年に開眼供養の儀式が盛大に行われた。

問1 （ A ）に共通してあてはまる適切な人物名を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄1)

1. 定家   2. 不比等   3. 道長   4. 仲麻呂

問2 （ i ）・（ ii ）・（ iii ）にあてはまる適切な漢数字の組み合わせを下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄2)

1. 百・二・三   2. 一・二・四   3. 百・三・一   4. 一・三・四

問3 下線部アについて、下の各文は墾田永年私財法に関する説明である。説明として不適切なものを下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄3)

1. この制定は、律令体制の基礎である土地の公有の原則を破るものであった。
2. 開墾の資力に恵まれた貴族・豪族の土地の所有は、これ以後増加した。
3. 有力な貴族や寺院は、広大な山野を抱え込み、一般農民を雇って開墾させた。
4. 豪族・貴族は、各地に浮浪・逃亡する農民を把握するために戸籍と計帳を作成した。

問4 (I)・(II)にあてはまる適切な人物名の組み合わせを下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄4)

1. 長屋王・光明子
2. 厩戸皇子・小野妹子
3. 中大兄皇子・額田王
4. 刑部親王・淡海三船

問5 (B)にあてはまる適切な地域名を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄5)

1. 東北
2. 関東
3. 四国
4. 九州

問6 下線部イについて、下の1～4は聖武天皇が転々とした都の名称を順に示したものである。順番として適切なものを下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄6)

1. 平城京→難波宮→紫香楽宮→恭仁京
2. 平城京→恭仁京→難波宮→紫香楽宮
3. 恭仁京→平城京→紫香楽宮→難波宮
4. 恭仁京→難波宮→紫香楽宮→平城京

問7 (C)にあてはまる寺院の名称を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄7)

1. 薬師寺
2. 東大寺
3. 法隆寺
4. 興福寺

問8 下線部ウについて、その後、日本に渡来して戒律を伝えた人物名を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄8)

1. 行基
2. 道元
3. 栄西
4. 鑑真

【Ⅱ】次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

徳川吉宗は徳川幕府の（ A ）代将軍であり、元紀伊藩主であった。吉宗は家康時代を理想とし、側用人政治をやめて（ i ）や（ ii ）を重視し、優秀な人材を登用して自ら先頭に立って幕政改革に乗り出した。

改革の第一のねらいは、財政の再建であった。吉宗はまず倹約令を出して、支出の減少につとめた。旗本の人材登用にあたっては、家柄の低いものが高い役職につく場合、在職中に限り役高の不足分を支給する（ B ）の制を実施して経費を省いた。一方で、収入の増加にも力を入れ、大名に上げ米を命じた。さらに根本的な対策として、毎年収穫高に応じて変わっていた年貢率に対しては定免法を採用し、年貢率も引き上げた。また商人の資金力を借りて新田開発をすすめるなどして年貢米を増やした。これらの政策によって幕府の財政はやや安定するようになった。

改革の第二のねらいは、江戸の都市政策であった。吉宗は町奉行に大岡忠相を登用し、町火消組を組織させて防火対策をすすめた。また、商業の発展にともない金銀貸借の訴訟が非常に増えてくると当事者間で解決するよう命じた。さらに裁判の基準として（ C ）をつくらせ、法による合理的な政治を推進した。

吉宗の後、幕府の権力を握ったのは、側用人から老中になった田沼意次であったが、意次の失脚後、将軍の徳川家斉をたすけて老中になったのは吉宗の孫の松平定信である。定信は田沼時代の政治を改め、吉宗の政治を理想として幕政改革に取り組んだ。これを（ D ）の改革という。

定信の施策の第一は農村の復興で、百姓らに荒れた土地を元に戻すための資金を貸した。また、江戸の一時的な居住者には帰農をすすめた。さらに、飢饉に備えて各地に社倉・義倉をつくらせて米穀を蓄えさせた。

第二は都市政策で、まず物価の引き下げに乗り出し、倹約令を出して気風の引締をはかった。また、（ E ）を出して、金融業者である札差に貸金を放棄させた。無宿人対策としては、石川島に人足寄場をおき、收容したものに技術を身に着ける指導をした。

定信は、思想の取締りを厳しく行ったが、この厳しい統制は民衆から不評であった。加えて、朝廷との問題をめぐって将軍家斉との対立もあり、定信は老中在職6年余りで退陣した。

問1 （ A ）にあてはまる適切な数字を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄9)

1. 3   2. 5   3. 8   4. 11

問2 （ i ）・（ ii ）にあてはまる適切な語句の組み合わせを下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄10)

1. 外様・御家人   2. 譜代・旗本   3. 親藩・代官   4. 寺社・若年寄

問3 (B) にあてはまる適切な語句を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 11)

1. 軍団   2. 上知   3. 寺請   4. 足高

問4 下線部アについて、上げ米の説明として不適切なものを下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 12)

1. 石高1万石につき100石を上納させた。
2. 参勤の江戸滞在の期間を半分にした。
3. 飢饉対策用に七分積金を開始した。
4. 9年の期間も実施して収入不足を補った。

問5 (C) にあてはまる適切な語句を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 13)

1. 武家諸法度   2. 御成敗式目   3. 荘園整理令   4. 公事方御定書

問6 下線部イについて、田沼時代の政治にあてはまらないものを下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 14)

1. 株仲間を広く公認して営業税によって収入を得た。
2. 商人の力を借りて印旛沼や手賀沼の干拓をすすめようとした。
3. 対馬の開発と交易の可能性について研究させた。
4. 長崎貿易の支払いには銅や俵物をあてて金銀の輸入をすすめようとした。

問7 (D) にあてはまる適切な語句を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 15)

1. 慶安   2. 享保   3. 寛政   4. 天保

問8 下線部ウについて、定信が実施した厳しい取り締まりにあてはまらないものを下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 16)

1. 湯島聖堂の幕府学問所では、朱子学以外の講義や研究を禁じた。
2. 林子平の『海国兵談』を、人心を惑わすものとして処罰した。
3. 山東京伝の小説を、風俗を乱すものとして処罰した。
4. 鎖国政策を批判する渡辺崋山や高野長英を処罰した。

【Ⅲ】 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

明治新政府は、政府が直接全国を支配する中央集権体制を目指した。新政府は、旧幕府領のほかに政府に反抗した藩を没収して府県を設置したが、その他の藩は残っていた。こうしたなか、1869年1月、4つの藩主が版籍奉還を願い出て、他の藩もこれに続いた。6月には残った藩に版籍奉還を命じて、藩は府県とならぶ地方行政組織となった。しかし、旧藩主がそのまま知藩事に任命されたため、旧領地との結びつきには変化がなかった。そこで、新政府はさらに中央集権化を進めるために1871年7月に（ i ）を実行した。知藩事は罷免されて東京居住が命じられ、あらたに府知事・県令が政府から任命された。こうして中央集権体制が確立した。

明治新政府は、さまざまな改革を行った。1871年、（ i ）に先立って3藩から8,000の兵を集めて天皇を護衛する親兵が設置され（ i ）の後、旧藩兵は解散した。そして1873年に徴兵令が公布された。また、財政に関して、江戸時代と同様に農民からの年貢に財源を頼っていたため、旧藩ごとに徴収の仕方が異なり、歳入は安定しなかった。そこで政府は、1873年7月、地租改正条例を制定して、地租改正事業を1881年までおこなった。

新政府は、近代産業の育成にも努めた。幕府や藩から引き継いだ軍需工場や鉱山の経営、さらに、鉄道・通信・造船などの育成をはかり、外国人による経営を排除していった。このころ貿易は、輸入が増えたのに対して（ ii ）などの輸出が不振で輸入超過となっていた。そこで政府は、輸出を増やすため（ ii ）の品質改良や増産をめざし、官営模範工場などをつくった。さらに1873年に（ iii ）を設置し、製糸、紡績などの軽工業と農業、牧畜業の育成を進めた。鉄道事業は、1872年に（ A ）間が開通し、東海道線が全通したのは1889年であった。郵便事業は、1871年に（ B ）の意見によって官営の事業として始まった。海運業では、三菱商会が政府の保護を受けて発展していった。

新政府は、貨幣に関しても改革をおこなった。明治時代のはじめには、江戸時代以来の旧貨幣や藩札のほか、政府が発行した貨幣や混乱に乗じてつくられた多数の贋金も流通していた。そこで、1871年に新貨条例を制定し、混乱の解決をはかった。ついで、1872年には渋沢栄一らが（ C ）の制度に学んで、国立銀行条例を制定した。

問1 下線部アについて、4つの藩にあてはまらないものを下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 17)

1. 薩摩   2. 土佐   3. 肥前   4. 会津

問2 （ i ）に共通してあてはまる適切な語句を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 18)

1. 廃藩置県   2. 一国一城令   3. 太閤検地   4. 上知令

問3 下線部イについて、地租改正に関係する文として不適切なものを下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 19)

1. 1872年に地価を定めて土地所有者に地券を発行した。
2. 土地の所有者は地価の3%を現物で納めることになった。
3. 茨城県や三重県で地租改正反対一揆が起こった。
4. 1877年に地租の税率を2.5%に引き下げた。

問4 (ii)・(iii)にあてはまる適切な語句の組み合わせを下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 20)

1. 武器・兵部省
2. 銅・工部省
3. 生糸・内務省
4. 呉服・文部省

問5 (A)にあてはまる適切な語句を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 21)

1. 品川ー下田
2. 神田ー上野
3. 新橋ー横浜
4. 浅草ー東京

問6 (B)にあてはまる人物名を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 22)

1. 榎本武揚
2. 五代友厚
3. 岩崎弥太郎
4. 前島密

問7 (C)にあてはまる国名を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 23)

1. ロシア
2. イギリス
3. フランス
4. アメリカ

問8 下線部ウについて、これに関係した下の文の中で不適切なものを下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 24)

1. 不換紙幣の整理や資金の供給を目的としたものである。
2. 国営の国立銀行が金兌換紙幣を発行することとなった。
3. 発行した銀行券の金兌換が義務付けられていた。
4. 1876年に条例を改正して国立銀行の兌換制度を廃止した。

【IV】 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

1960年6月、岸信介首相が退陣し、その後をうけて7月に（ A ）内閣が登場した。この内閣は、国民所得倍増をめざす経済政策の推進をはかった。革新勢力との対決をさけながら、年率（ B ）%の経済成長を目標にすえたのである。

日本の経済は、1950年代後半から好況が続き、投資が投資をよぶ高度経済成長の時代となった。経済成長にともなって、大規模な設備投資と技術革新が進められていった。臨海地域に巨大な製鉄所が建設され、エネルギーが（ i ）から石油に転換するにつれ、太平洋ベルト地帯に石油化学コンビナートの建設が進められた。

政府は農業政策にも力を注いだ。1961年に農業基本法を制定し、多額の補助金を投入して構造改善の事業を推し進めた。さらに（ C ）によって米作の保護をはかった。農業の生産性は向上したが、労働力は（ ii ）へと移り、現実には農業の兼業化が進んだ。

経済の国際環境は、1960年前後から変化しはじめた。アメリカの国際収支は急速に悪化し、日本に貿易・為替の自由化を要求してきた。政府は、高い関税と（ iii ）制限による保護貿易主義を撤廃し、その結果、自由化品目は1963年に輸入品の95%にまで達した。1964年4月には、（ I ）協定にしたがって、日本は独自に為替管理ができない（ I ）8条国に移行した。また、経済協力開発機構に加わり、資本の自由化を進めた。産業界では、国際競争力を強化するために、企業の合併があいついだ。その結果、寡占化が進み、銀行を中心とした企業集団が形成され大きな力を持つようになった。

1964年に成立した佐藤栄作内閣は、アメリカとの協力関係のもと、アジアにおける日本の役割を高めようとし、1965年、（ D ）を結んだ。その一方で、アメリカはベトナム民主共和国への爆撃を開始し、ベトナム共和国に地上軍を派遣して、全面的軍事介入に踏みきった。

経済の高度成長のなかで、国民の生活は大きく変化した。第1次産業の就業人口が急速に減少し、かわって第2次産業と第3次産業の就業人口が増大した。また、マスメディアが多様化し、テレビも普及するなど、大量生産のもと、消費生活は大量消費となったのである。

問1 （ A ）にあてはまる適切な人物名を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 25)

1. 吉田茂   2. 池田勇人   3. 鳩山一郎   4. 田中角栄

問2 （ B ）にあてはまる適切な数字を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 26)

1. 3   2. 5   3. 7   4. 9